

やまがた森林ノミクス推進事業費
(公共・民間施設木造化・木質化推進事業)

事業評価個票 (事業実施:平成30年度)					部局名	農林水産部		
短期アクションプラン	テーマ	テーマ4 地域の豊かさを支え、高いブランド力で国内外に展開する農林水産業						
	施策	施策6 「やまがた森林ノミクス」の推進						
	目的	本県の豊かな森林資源の県民総参加での利活用と再生を進めるとともに、林業及び木材関連産業の振興を図り、地域の活性化へ結びつける。						
	目標指標(R2)	木材(素材)生産量	60万m ³					
	策定時の実績	36万m ³ (H27)	現状	48.9万m ³ (H29速報値)	主要事業	県産木材等の需要拡大		
事業名	やまがた森林ノミクス推進事業費 (公共・民間施設木造化・木質化推進事業)			担当課・担当	森林ノミクス推進課 木材産業振興担当			
事業開始年度	平成29年度			事業終了(予定)年度	令和元年度			
事業の目的 (目指す姿を3行程度で簡潔に)	展示効果の高い公共建築物及び民間施設での木造化・木質化を推進し県産木材の良さを周知することにより県産木材の利用拡大を図るもの。							
事業概要 (5行程度で簡潔に)	<ul style="list-style-type: none"> ○県庁ロビーの内装木質化工事を実施(詳細設計業務委託含む) ○交通拠点施設(空港)の木質化を支援。補助率1/2以内(上限5,000千円) ○県産木材を使用した内装木質化及び木製品の配備を行う民間施設を支援。補助率1/2以内(上限2,000千円) ○民間施設の建築に際し県産木材にかかる費用を一定以上(建築工事費割合)要した取り組みを県HPで紹介し特に優れた取り組みを表彰する。 							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他 上記実施方法とする理由:各事業の内容により、委託、請負、補助により実施							
予算額・決算額 (単位:千円)	費目(予算見積書のグループ名)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	公共・民間施設木造化・木質化推進事業	6,197	36,332					
	計	6,197	36,332	0	0	0		
財源内訳 (単位:千円)	国庫支出金							
	繰入金		27,000					
	その他特定財源							
	一般財源	6,197	9,332					
	計	6,197	36,332	0	0	0		
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	顕彰件数(累積)	活動実績		-	6	-		
		当初見込み	件	-	10	20		
成果指標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標 (所管部局の分析)		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	民間施設(産業用建築物)の木造化率	成果実績		41	38	-		
		目標値	%	45	50	55		
		達成度	%	91.1	76.0			
関連事業	県産製材品高度化促進事業 県産認証材「やまがたの木」普及・利用促進事業 顔の見えるやまがたの木で家づくり普及促進事業 東京オリンピック・パラリンピック木材供給事業							

事業目標の考え方(事業目標設定時)

公共建築物等への木材利用を巡る情勢の変化を受け、平成29年に国の「公共建築物等における木材利用の促進に関する基本方針」が変更されたことを受け、県の「やまがたの公共建築物等における木材の利用の促進に関する基本方針」を変更した。基本方針では、低層の公共建築物の他、3階建て校舎等(3,000㎡以下、軒高13m以下)の建物の木造化や、新たな木質部材を使用した大規模な木造建築の可能性についても検討することとし、公共建築物の木造化・木質化にこれまで以上に取り組んでいくこととしている。また、民間で整備される公共施設についても、県や市町村が整備する公共施設と同様に展示効果が高いことから木造化を進め、一般住宅への波及はもとより民家施設(事業所)等での木造化・木質化について推進していく必要がある。本事業目標は、民間施設への波及効果を計るものとして設定

事業所管部局による評価・検証

	項目	評価	評価に関する説明
事業目標の妥当性・達成度	事業の目的は県民や社会のニーズを的確に反映しているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・公共・民間施設木造化・木質化推進事業は、県産木材の利用拡大を図り、やまがた森林ノミクスを推進するための事業展開となっており、優先度の高い事業である。 ・県産木材を活用した民間木造施設の顕彰については、受賞した6施設を広くPRしているため、民間施設への波及効果が高いものとなっている。 ・民間施設の木造化率も目標値を下回っているが、全国上位に位置している。 ・これまで整備した、空港や駅といった交通拠点施設は、内装木質化のモデルとして活用されており、メディアにも取り上げられるなど、高い普及効果が発揮されている。
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。	A	
	目標水準は妥当か。	A	
	期待する成果が得られたか。	A	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	A	
事業内容の妥当性	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	C	<ul style="list-style-type: none"> ・県産木材を活用した民間木造施設の顕彰については、事業初年度で周知期間が短く、現時点での実績は少ないが、今後も広く募集することで、さらに県産木材を有効活用した施設を取り上げていく。 ・支出先の選定等各項目については、各事業とも適切に実施している。 ・民間施設への支援は、利用人数が多く、木造化・木質化のモデルとして効果が高い。 ・事業の対象を県庁ロビーや交通拠点施設を木質化のターゲットとすることで、他部局の支援と役割を分けている。
	支出先の選定は妥当か。	A	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	A	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	A	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	A	
類似の事業がある場合、他部局等と適切な役割分担を行っているか。	A		
の役割 妥当 性担	市町村、民間等に委ねることができない事業なのか。	A	・県が中心となって進めることが効果的な事業である。
今 改 善 の 課 題 ・	・県産木材の率先利用を進めるため、公共施設の木造化・木質化の支援等だけでなく、民間施設の木造化・木質化を促進していく。		

・事業所管部局による評価にあたっては、以下の4つの選択肢から、1つを選ぶこと。

A: 目標を上回って達成する見込み。期待通りの成果(100%以上)。妥当。

B: 目標を概ね達成する見込み。概ね期待通りの成果(80~99%)。概ね妥当。

C: 改善の余地あり。期待した成果を下回っている(79%以下)。

ー: 該当しない